製本のススメ　Vol. 48

お正月に祝日連休と、嫌でものんびりした一月ですね。世の中大恐慌と言われていますが『てやんでぃ！印刷業界は、万年不況業種だぜぃ！貧乏なんざぁ今に始まったことじゃぁねぇやぃ！』と開き直って、さぁ今年も頑張りましょう！

今回も共通ルールのお話（２回目）

印刷の『針・クワエ』は製本でも**重要で大切で貴重で基本です！**これをしっかり頭に入れてください。では針印の話から一歩戻りましょう。

印刷をするまえに**紙の直角**を出していますか？包装紙のまま、ドーンと半分にしただけで、印刷を始めていませんか？印刷機は多少曲がった用紙でも、紙辺の角度に係わらず、刷ることが出来ますが、製本はそうはいきません。基本的に**製本では印刷内容で無く、紙辺に対して加工を進める**からです。

例えば折り紙で鶴を作るとしましょう。そこに鶴の羽模様を印刷したとします。折り紙が曲がっていたら、きちんと鶴が折れませんし当然　羽模様の絵は合いませんね。製本（後加工全て）には、**用紙の直角も不可欠**なのです。印刷の前には、用紙を化粧断ちして直角を出しておきましょう。紙屋さんから化粧断ちして入荷されることも有ると思いますが、その際にも念のため直角かどうかを確認してください。もしも、直角でなかったら、断裁不良を伝えましょう。**印刷作業は紙の断裁段階から始まっています**。

さて製本工程では、直角の出ている針側を極めて大切に作業を進めていますが直角の無い用紙の場合には、やむなく針側であっても断裁をしなくてはなりません。こうなると見開きの柄は絶対に合うはずが無く、高品質で短納期という条件に逆行し当然　良品など出来上がりません。ちなみに直角が 0.5 ミリ狂っていれば、二つ折した瞬間に 1 ミリの誤差が生まれるのです。これは重大な事ですね。

☆印刷時の針・クワエを、そのまま製本で使う事が出来れば、精度を維持できます☆

多くの製本会社では、殆ど毎日のように折を斜めになるように折っています。それほど紙に曲がりがあり、また印刷にもブレが発生しているのです。

エンドユーザーに、満足以上の満足をしていただく為には、製本だけでは限界がありますから、是非とも前工程でのチェックをしていきましょう。

Ｔｅａｂｒｅａｋ

「鬼は外・福は内」と節分間近となりました。昔は季節の変わり目に鬼などの妖怪が集まり疫病や災いをもたらすと考えられており、福豆をまくことで自分の家から鬼を打ち払おうとしたのだそうです。門には毒草で棘のあるヒイラギと生臭物のイワシの頭を刺して、魔除けにしたのですね。

by（株）井関製本